

公開質問状に対する回答

お世話になります。

貴職から頂いた公開アンケートについて、下記のとおり回答させていただきます。

よろしくお願いいたします。

1、

人々の自由で豊かな発展のためにも、芸術・文化の果たす役割は大きいものがあります。私は、草の根の文化活動を応援し、舞台芸術、映画、音楽などへの公的助成を改善・充実させるとともに、舞台芸術、音楽などでは安く使用できる練習場の公的設備が必要だと考えます。

国が「文化芸術振興基本法」を施行してから10年経過しましたが、愛知県を含め多くの自治体では、その地域に適した振興策を示せない中、文化予算が削減される傾向があります。県（文化芸術課）として関係市町村、地元文化関係者と速やかに協議する機関を設けて、愛知県としての文化芸術振興計画の具体化をはかり、それに見合う予算も計上していく考えです。

なお、市町村の文化芸術振興策とは、差別化ということではなく、県内の自治体と文化連絡協議会を設置して、会場の再配置、舞台公演の連携など効率的に遂行していく考えですが、県内の専門家の意見も伺いながらすすめていきたいと思えます。

2、

愛知芸術文化センターは建物の規模・設備、設置条件などから「創造拠点劇場」にふさわしいと思われませんが、現在の愛知芸術文化センターは芸術監督にあたる存在がなく、かつ硬直的な管理運営も問題になっています。ホールが競って芸術創作をし、地域の芸術家の育成機関にもなるというメリットがうたわれていますが、一方で、劇場にお金を全部とられてしまう、芸術監督の好き嫌いで団体が選ばれているのでは、との不満の声も聞かれます。昨年、国の「事業仕分け」を受けて、文化庁は芸術団体への助成事業の予算について「3年間で半減させる」などの方針を示しています。

これらを全体的に検討するならば、現在すすめられている「劇場法」は各地の文化芸術団体に真に有効なのかどうか、疑問をもたざるを得ません。拙速は避けて、当面、文化予算の削減に歯止めをかけつつ、「劇場法」については幅広い議論を重ねて、愛知でもその具体化をはかるべきと考えます。

3、

当初 30 万人見込みの約 2 倍の県内外の人々が鑑賞し、現代芸術に触れ理解を深めた点では成果があったと考えます。長者町での催しも文化を通して地域活動をはかる貴重な試みでした。一方で愛知芸術文化センター美術館の利用制限が生まれ、地元の芸術団体、愛好家の展示などの催しが十分に伝えられなかったことは残念です。また、どちらかという、県外からの著名な作家や作品を集めることに重点がおかれた傾向も否めません。次回開催する場合は、これらの反省もふまえ、美術を中心とした地元文化団体や県民の意見を幅広く求めて、企画段階からオープンにして計画立案することを前提に、継続することも考えられると思います。

なお、文化芸術問題は鑑賞する県民の存在と併存するものです。今、愛知県民がおかれている状況は「不況」を口実としたリストラ、派遣切り、賃下げ、サービス残業の横行など極めて厳しく「貧困化」が差し迫った問題となっています。こうした問題の打開なくして憲法が保障する豊かなくらしは実現できません。文化芸術の創造と鑑賞が県民誰もが享受できるよう、くらし応援の県政を実現することが重要だと思えます。